

公立大学法人岐阜県立看護大学 平成24年度小項目ごとの検証・確認における論点整理

自己評価の区分		判断の目安
IV	年度計画を上回っている	計画の実施状況が100%超
III	おおむね年度計画どおり実施している	計画の実施状況が90%超100%以下
II	年度計画を下回っている	計画の実施状況が60%超90%以下
I	年度計画を大幅に下回っている	計画の実施状況が60%以下

1 法人の自己評価を変える項目

通し 番号	年 度 計 画	業務の実績・法人の自己評価	論 点	検 証 (案)
77	情報セキュリティポリシーに基づく、情報セキュリティの対策基準を作成する。	情報セキュリティ対策基準案、外部記録媒体の管理及び利用に関する要領案、個人情報保護チェックシート案を作成した。	<p>「III」→「IV」 情報セキュリティ対策基準案の作成に加え、要領、チェックシート案を作成していることは、年度計画を上回って実施しているのではないか。</p> <p>「III」のまま 基準、要領、チェックシートとも案を作成したに留まっており、計画以上の実施をしているとは考えにくい。</p>	<p>年度計画にある情報セキュリティ対策基準案の作成に加え、要領、チェックシート案も作成されているため、年度計画を上回って実施していると認められる。今後の運用に期待する。</p>

通し 番号	年 度 計 画	業務の実績・法人の自己評価	論 点	検 証 (案)
90	(2) 図書館の暖房対策など、適切に施設等の改修を行う。	(2) 図書館の暖房対策に関しては、北側閲覧席への足元暖房「暖カウンター」の試験設置と業者による説明会など、熱源追加の方策について検討を進めた。	<p>II</p> <p>「Ⅱ」→「Ⅲ」 冬期に実状を把握した上で、次年度に改修を実施することとしている(通し番号43 ヒアリングによる補足事項参照)。慎重に検討した結果であり、安易な改修を行わなかったことを加味して評価すべきである。</p> <p>「Ⅱ」のまま 年度計画で改修を行うとしているところ検討にとどまっているため、Ⅱの評価は妥当である。</p>	<p>改修を実施するとしているところ、検討にとどまっているため、Ⅱの評価は致し方ない。</p> <p>II</p>
94	(1) 省エネルギー診断の結果を活用して、省エネルギー計画の作成に向けて具体的に取り組む。	(1) 省エネルギー計画作成のため、作成手順の項目出しを行った。	<p>III</p> <p>「Ⅲ」→「Ⅱ」 もう少し具体的に取り組むべきではないか。</p> <p>「Ⅲ」のまま 計画を作成する上での地道な作業を実施し、有効な計画となるよう取り組んでいるのではないか。</p>	<p>計画作成が早期に実施されるよう、作成手順の項目出しに留まらず、数値の洗い出し、決定など具体的な取り組みを期待したかった。</p> <p>II</p>

2 コメントを付す項目

通し 番号	年度計画	業務の実績・法人の自己評価	論 点	検 証 ・ 確 認 (案)
01	<p>(ア) 確立した卒業時到達目標を基準とした到達度評価と最終学年時の指導を実施する。</p> <p>(イ) 学生及び教員による授業評価に基づく改善措置の実施体制を継続し、授業評価方法及び学生への結果公表方法を検討する。</p> <p>(ウ) 保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正に伴い充実させたカリキュラムを運用する。</p>	<p>(ア) 新設した「看護学統合演習」を4年次に開講し、卒業時到達目標に基づく到達度評価を実施した。</p> <p>(イ) 授業科目別に授業担当教員が、当該年度の改善事項、次年度改善計画、他の科目との関連での充実・精選・効果的な方法についてまとめ、教授会で周知し改善する体制を継続実施した。また、学生による授業評価の結果(客観的指標による項目)に教員によるコメントを付して掲示にて公表する方法を実施した。</p> <p>(ウ) 保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正に伴って平成23年度に承認を得たカリキュラムを運用した。</p>	<p>充実希望</p> <p>到達度評価を実施し、その結果について検証はなされているのか。</p>	<p>到達度評価の結果について検証されたい。</p>
03	<p>(オ) 看護専門職として主体的な自己を高めるための教養科目のあり方を検討する。</p>	<p>(オ) 看護職者として主体的な自己を高めるための教養科目の在り方を教養専門関連科目運営委員会及び教務委員会が協働で検討し、教養科目(コミュニケーション論、ジェンダー論)の配当セメスターを4年次から3年次配当に変更し、次年度開講に向けた準備を行った。</p> <p>【ヒアリングによる補足事項】</p> <p>3年次の看護学領域実習でコミュニケーションやジェンダーに関心が高まるので、その後コミュニケーションやジェンダーの理論や取り組み方について学修することは、4年次の卒研実習の内容を充実させることができる。</p>	<p>特筆すべき取組・充実期待</p> <p>教養科目の在り方について複数の委員会が協働で検討し、その結果を基に配当年次を変更することで、より効果的な学修が期待できる。</p>	<p>必修、選択を併せ教養科目が充実配置されていることは評価できる。近年増加しているフェイスブックやツイッターなどのコミュニケーションツールについて、情報管理等の教育の実施を期待する。</p>

通し 番号	年 度 計 画	業務の実績・法人の自己評価	論 点	検 証 ・ 確 認 (案)
04	(カ) 卒業研究を通して学生がどのように看護実践上の課題を把握し、改善への取組みを企画しているのか、思考過程を確認して生涯学習の基礎の充実を図る。	(カ) 卒業研究を通して学生がどのように看護実践上の課題を把握し、改善への取組みを企画しているかに関する思考過程の確認方法について教務委員会が方法案を作成し、教授会にて検討し決定した。平成24年度卒業研究履修学生の思考過程について、学生が取り上げた看護実践上の課題（研究課題）、研究課題決定までのプロセス、実施した看護実践活動と用いた研究データ、研究課題に基づく看護実践活動を通して得た学生の学び、研究計画作成における教員による指導の焦点、看護実践における教員指導の焦点、及び論文作成における教員指導の焦点に関して、1月の時点で各担当教員が明確化し、当該資料に基づき指導方法について検討した。	特筆すべき取組 丁寧な学生指導が行われている。	丁寧な学生指導が行われている。
05	(ア) 博士前期課程の看護学特別研究指導については、領域を超えた特別研究協働授業を継続すると共に、看護実践研究指導の実績を共有し、4領域に共通する指導内容と水準を確認するファカルティ・ディベロップメントを継続する。 (イ) 博士前期課程の学位授与方針を明文化する。	(ア) 1年次における特別研究指導として、領域を超えた協働授業を7月及び11月に継続実施した。また、協働授業に対する教員の実施評価に加えて、学生の授業評価を追加実施し、その結果を基にFD研修会において、1年次における研究指導体制を共有し、協働授業の進め方を明確にした。 (イ) 博士前期課程の学位授与方針を作成し、平成25年度に研究科委員会における検討を経て学生便覧に明記することとした。	特筆すべき取組・充実期待 協働授業を実施するだけでなく、教員の実施評価、学生の授業評価を実施し、その結果を基に研究指導体制を共有するなど、充実とレベルアップに努めていることが評価できる。	充実とレベルアップのために努めており、学位授与方針を明文化している。 協働授業の継続実施を望む。
06	(ウ) 博士後期課程の学位授与方針を明文化する。	(ウ) 博士後期課程の学位授与方針を作成し、平成25年度に研究科委員会における検討を経て学生便覧に明記することとした。	将来期待 看護師が不足する中において、より質の高い看護師が求められている。看護師養成機関として、「教育力」を兼ね備えた人材を輩出されるよう更に努力されることを期待する。	充実とレベルアップのために努めており、学位授与方針を明文化している。 より質の高い看護師養成が望まれるなか、教育力を兼ね備えた人材の輩出に尽力されたい。

通し 番号	年度計画	業務の実績・法人の自己評価	論 点	検 証 ・ 確 認 (案)									
08	(オ) 専門看護師教育課程基準の変更に伴い、本研究科の専門看護師コースの教育課程を見直す。	(オ) 専門看護師教育課程基準が26単位から38単位以上への移行期にあることを踏まえて、平成25年度から、看護学共通科目において臨床薬理(2単位・30時間)を開講できるように準備を整えた。	充実期待 より質の高い看護を提供するための知識や技術を備えた専門看護師は今後ますます必要となる。	38単位以上への移行後も引き続き専門看護師育成コースの充実を期待する。									
09	(カ) 修了者、職場同僚、職場上司の三者による評価を継続して実施し、その結果に基づく研究科内の意見交換を行い、改善策に反映させる。	(カ) 平成23年度修了者を対象として行った三者評価において、本研究科で付与すべき能力に合致した学びが確認できたことから、現行の教育課程・指導体制を継続することとした。	特筆すべき取組 三者評価を実施することで、現行の教育課程・指導体制が有効であることを常に確認でき、必要であれば早期改善を図ることができる。	三者評価について今後も継続されることを望む。									
12	(イ) オープンキャンパス、大学ホームページ、教員の出張方式による大学説明会、在学生による母校訪問説明会、大学案内等の刊行等を継続実施し、自己点検を行いつつより良いあり方を目指す。 (イ) 毎年度実施してきた本学選択に影響を与えた媒体に関する入学時調査を継続し、効果的方法を採用する。	(イ) 広報活動対策会議の方針に基づき、オープンキャンパス等広報に関して検討し、中学生、高校生及び保護者、教員への理解度が高まるように、内容改善を行うとともに、出張式大学説明会を継続実施した。また、学生(3年次・4年次)は自主的に母校訪問を実施した。 <table border="1" data-bbox="573 778 1070 1038"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>開催日</th> <th>参加者数等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オープンキャンパス</td> <td>平成 24. 8. 5～8. 6</td> <td>778名 (H23年度 818名)</td> </tr> <tr> <td>出張式大学説明会</td> <td>平成 24. 5月～3月、25件 (高校及び岐阜県看護協会等)</td> <td>543名 (H23年度 210名)</td> </tr> </tbody> </table> (イ) 1年次生を対象とした「本学選択に影響を与えた媒体に関する入学時調査」を継続実施し、ホームページと大学案内冊子の利用者が多いことから充実方法を検討し、大学案内冊子の充実を行った。 【ヒアリングによる補足事項】 大学案内冊子について、次のとおり充実させた。 ・本文のページ数増加 ・卒業に要する単位について、助産師や養護教諭一種を選択した場合の単位数を表示 ・大学院専門看護師コースに関する説明の追加 ・統一感のあるレイアウト実現のため全体の構成の見直しなど	内 容	開催日	参加者数等	オープンキャンパス	平成 24. 8. 5～8. 6	778名 (H23年度 818名)	出張式大学説明会	平成 24. 5月～3月、25件 (高校及び岐阜県看護協会等)	543名 (H23年度 210名)	特筆すべき取組 効果的な広報活動は何かを調査し、検討、実施していることは評価できる。	調査を実施し、大学案内冊子の構成の見直し、説明の追加など大学案内冊子について充実させている。有効となる広報を効率的に利用しており、努力が伺える。
内 容	開催日	参加者数等											
オープンキャンパス	平成 24. 8. 5～8. 6	778名 (H23年度 818名)											
出張式大学説明会	平成 24. 5月～3月、25件 (高校及び岐阜県看護協会等)	543名 (H23年度 210名)											

通し 番号	年 度 計 画	業務の実績・法人の自己評価	論 点	検 証 ・ 確 認 (案)
13	(ウ) 県内ニーズに対応した博士前期課程の志願者を確保するための方法を充実させる。	<p>(ウ) 岐阜県看護実践研究交流集会及び本学主催の共同研究報告と討論の会において、本学の生涯学習支援事業を説明し活用を促した。また、卒業者・修了者の就業が多い病院の看護部との人材育成に関する情報交換会や、県主催の各種研修会にて、大学院での学修を勧めた。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【ヒアリングによる補足事項】 大学からは学長、学部長、研究科長、領域責任教授等が出席し、情報交換会は次の4施設で開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県立多治見病院 (看護部長、副看護部長、卒業者15名) ・ 久美愛厚生病院 (看護部長、看護師長3名、卒業者11名) ・ 岐阜県総合医療センター (看護部長、管理監2名、指導監、卒業者11名) ・ 羽島市民病院 (看護部長、副看護部長2名、卒業者3名) </div>	<p>特筆すべき取組 情報交換会を開催することで、県内ニーズに直結した看護師の育成が可能となる取り組みとなるのではないかと。</p>	<p>病院看護部との人材育成に関する情報交換会を継続されることを望む。</p>
14	(ア) 教務委員会と学生生活委員会が協働して行う個別指導や面接により強化した支援体制を継続する。	<p>(ア) 1年、2年次生については、学生生活委員会及び学生相談教員が行う全員を対象とした定期的個別面談から得られた課題及びニーズについて、教授会で報告した。その後教務委員会及び関連委員会、さらに各領域で協議し、継続的に学生を支援する体制を継続した。</p>	<p>特筆すべき取組 1年、2年次生全員を対象に個別面談を実施し、課題やニーズを把握し検討するなど、有効となる支援体制を模索し続けていることが評価できる。</p>	<p>今後も学生を支援する体制を維持されたい。</p>

通し 番号	年 度 計 画	業務の実績・法人の自己評価	論 点	検 証 ・ 確 認 (案)
17	(イ) 平成23年度の学生生活実態調査結果に基づき、学修環境の改善方法を検討する。	(イ) 平成23年度の学生生活実態調査結果に基づき、学生の自主学修に適した学内環境の整備の検討を継続し、演習室の暖房器具の増設、学生自習室のパソコン、プリンターを配備した。 【ヒアリングによる補足事項】 学生自習室には、パソコン12台、プリンター1台が設置されている。 授業においては1人1台のパソコンが確保されており、自己学習用として貸出用ノートパソコン49台、マルチメディア教室に54台、学生自習室など学内施設に23台とプリンター10台が設置されている。	特筆すべき取組 調査を実施して、学生のニーズに即した対応を行っている。	限られた予算のなかで、常に雑誌や備品等の配備について検討し、きめの細かい学修支援を行っている。
19	(ア) 自治会・サークルの諸活動及び学園祭等の課外活動に関わる相談・支援を行い、学生生活を豊かにする活動の活性化を図る。	(ア) 学生自治会による岐看祭及びクリスマスコンサート等の開催に際して、学生生活委員会が相談支援を行った。また、サークル顧問教員と学生生活委員によるサークル顧問会議を開催し、各サークルの状況を共有する等、学生の課外活動に対する支援の活性化を図った。 10サークル中、7サークルの顧問教員が参加した。	特筆すべき取組 勉学だけでなく、サークル活動等の学生生活を豊かにする取り組みに、多くの教職員が取り組んでいることが確認できる。	勉学で多忙な中でも人間形成に大切なサークル活動を丁寧に行っていることを評価したい。
25	(ア) 県内施設及び卒業生の協力を得て、二次学生及び三次学生が看護という仕事の本質や魅力を再確認できる就職ガイダンスを実施する。	(ア) 就職ガイダンスは、1年次から4年次における体系的な年間計画を整備して実施した。その一貫として、2年次生及び3年次生が主体的かつ具体的に就職について考えることができるように、県内の医療施設(14施設)の参加を得て、看護部長や卒業生等による全体説明会と個別相談会を開催した(1月、2、3年次約160人参加)。また、3年次生と参加施設に就業している卒業生との交流会を開催し、各施設の研修体制や就職に向けた準備等について具体的に相談できる機会を設けた。さらに、市町村保健師の職場体験研修について、海津市と共同での開催を継続実施(2月)するとともに、各医療機関が開催しているインターンシップ研修に関する情報を随時提供した。	特筆すべき取組 県内医療施設と調整を行い、多くの参加者を得て説明会等を開催したり、卒業生と交流会を開催し具体的に相談できる機会を設けるなど、過密なカリキュラムの中、意欲的に取り組んでいることが評価できる。	就職ガイダンスは学生生活をより充実させる。多くの協力を得ながら、説明会、相談会、交流会を開催し、就職にむけた準備等について具体的に相談できる機会を設けるなど、看護という仕事を再確認する上で有効な取り組みである。卒業生との交流も図れることから、継続して実施されることを期待する。

通し 番号	年 度 計 画	業務の実績・法人の自己評価	論 点	検 証 ・ 確 認 (案)																								
28	(エ) 就職・進路対策部会は広報活動対策会議と連携を強化し、学生を支援する。	(エ) 広報活動対策会議と就職・進路対策部会が連携して就職ガイダンス等を企画・実施し、学生を支援した。平成24年度の就職状況は次のとおり。 就職者数 75名 県内就職者数 38名 県内就職率 50.6% <table border="1" data-bbox="624 453 1084 651"> <thead> <tr> <th></th> <th>保健師</th> <th>助産師</th> <th>看護師</th> <th>養護教諭</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県内</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>24</td> <td>4</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>県外</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>36</td> <td>0</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>60</td> <td>4</td> <td>75</td> </tr> </tbody> </table>		保健師	助産師	看護師	養護教諭	計	県内	4	6	24	4	38	県外	1	0	36	0	37	計	5	6	60	4	75	改善要望 県内就職率の目標値が設定されているのか。	県内就職率の目標値を設定すべきである。
	保健師	助産師	看護師	養護教諭	計																							
県内	4	6	24	4	38																							
県外	1	0	36	0	37																							
計	5	6	60	4	75																							
29	(オ) 学内 LAN を利用して、看護師及び保健師国家試験の過去問題を継続して提供する。	(オ) 看護師・保健師国家試験WEB 版の継続活用とともに、自己学習の場として演習室を提供した。 <国家試験合格率(平成25年3月卒)> <table border="1" data-bbox="598 831 972 991"> <thead> <tr> <th></th> <th>合格率</th> <th>全国合格率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健師</td> <td>100%</td> <td>97.5%</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>98.8%</td> <td>94.1%</td> </tr> <tr> <td>助産師</td> <td>100%</td> <td>98.9%</td> </tr> </tbody> </table>		合格率	全国合格率	保健師	100%	97.5%	看護師	98.8%	94.1%	助産師	100%	98.9%	特筆すべき取組 学内 LAN を利用した国家試験過去問題の提供は、学生の自己学習に非常に役立つ。	さまざまな取り組みにより、全国平均を上回る合格率をキープされている。今後も多くの合格者を排出されることを期待する。												
	合格率	全国合格率																										
保健師	100%	97.5%																										
看護師	98.8%	94.1%																										
助産師	100%	98.9%																										
31	イ 県内保健・医療・福祉施設の看護職との共同研究を実施し、実践の場における看護課題の改善に取り組み、看護サービスの質の向上に寄与する。	イ 共同研究課題は慢性疾患等の看護3題、精神疾患の看護2題、在宅療養支援3題、高齢者の看護2題、育成期の看護4題、看護職人材育成5題等計20題を実施した。対象施設は56施設、参加看護職等は155名であった。発表の場である「共同研究報告と討論の会」では発表後に現場の看護職者と教員による討議を行い、看護実践改善への意見交換を行った。	特筆すべき取組 学生を教育するだけでなく、看護職者との共同研究を実施し、看護実践改善を図るための意見交換を行うなど、看護サービスの質の向上に直結した取り組みを行っている。	「共同研究報告と討論の会」を継続されることを望む。																								

通し 番号	年度計画	業務の実績・法人の自己評価	論 点	検 証 ・ 確 認 (案)
32	<p>ア 学会報告や学術誌の投稿実績を各領域で自己点検評価し、各領域及び教授会において研究報告の活性化対策について検討する。</p> <p>イ 国際的視点で研究活動を推進する。</p>	<p>ア 活性化対策として、看護教育、看護実践に関する研究を学会や学会誌に報告することを教員会議で呼びかけた。その結果、紀要第13巻1号への掲載は、巻頭言、原著4編、研究報告3編、資料4編で、昨年度と比べ原著が3編増加し、総数も11篇と増加した。 学会誌等への論文掲載は9編で昨年と同じであったが、看護系学会学術集会への発表は41編（欧文発表5編）で昨年より1編多かった。</p> <p>イ 1名が海外研修支援事業を活用して、国際看護系学術集会への研究発表を行った。全体では海外で開催された看護系学術集会への発表が5編あった。</p>	<p>特筆すべき取組 学会誌への論文掲載は昨年と同数であるが、看護系学会学術集会への発表が41編、うち海外発表が5編あり、積極的な取り組みが表れている。</p>	<p>学会誌の原著論文は昨年と同数であったが、学内紀要では3編増加し、海外発表も5編あり、積極的な研究発表の取り組みが表れている。日常業務に追われるなかの努力が同様に評価できる。</p>
33	<p>ウ 教員各自の専門領域に応じた研究を推進・発展させる科学研究費補助金等への採択を支援するために、応募とその内容の充実に向けた研修を推進する。</p>	<p>ウ FD委員会が科研申請計画書3事例を基に研修会を9月に2回開催し、参加した教員は50名（参加率98%）であった。 文部科学省科学研究費補助金の新規応募資格者42名中、申請者数は11名（26%）であった。 各種研究助成に関する公募情報をメールで14件提供した。</p>	<p>特筆すべき取組 科研費取得に向けてFD委員会が研修会を開催したところ、98%の高い参加率であった。実際に採択率もこの数年上昇しており、研修会の成果が出ていると考えられる。</p>	<p>98%という高い研修会参加率があり、教員の意欲が表れている。採択率も数年上昇しており、大学の取り組みとして成功している事例である。</p>
37	<p>ア 学生に対し、県内看護職者の実践改善への取組みと本学卒業者の職場適応に関する情報提供を行い、県内就職の促進を行う。</p>	<p>ア 1月に2・3年次生160名を対象に県内14医療機関就職ガイダンスを看護部長、卒業者の出席を得て行った。学生の参加者は、全体説明会は150名、各施設単位の個別相談は50名、卒業者との交流会は30名であった。 9月開催の岐阜県看護実践研究交流集会を全学生に周知し10名が参加した。2月開催の共同研究報告と討論の会へも同様に全学生に周知し10名が参加した。 【ヒアリングによる補足事項】 9月は夏休み期間、2月は春休み期間であり、さらに4年生は国家試験直前であることから、参加者としては計20名と少ない。しかし、県内医療機関に就職した学生の選択動機として、看護実践研究報告を聞いてという回答があったと看護部長から聞いているので、成果はあると考える。</p>	<p>充実期待 カリキュラムの都合により、夏休み期間や春休み期間、国家試験直前など参加率が減少する時期にしか実施できない理由も考慮できるが、時期の変更が難しいのであれば、参加率の上がるような工夫を期待したい。</p>	<p>参加者が今後増加する取り組みを期待する。</p>

通し 番号	年 度 計 画	業務の実績・法人の自己評価	論 点	検 証 ・ 確 認 (案)
39	<p>エ 同窓会と協働して、卒業者の看護実践を語る会の開催を推進する。</p> <p>オ 専門看護師コース修了者に対しては、専門看護師認定審査に合格し、自施設での看護活動を充実させていくための支援を行う。</p>	<p>エ 7月21日、11月17日に同窓会と協働で「看護実践を語る会」を開催し、卒業者延38名の参加があった。開催状況をホームページに掲載した。</p> <p>オ 専門看護師課程修了生3名が認定試験を受験し合格した。受験する過程において第1期合格者及び教員との受験への情報交換を積極的に進めた。その支援過程を基に、自施設での看護活動を充実させていくための方法に繋がるように助言した。</p>	<p>特筆すべき取組 在学時の指導のみでなく、卒業後も支援を続けており、卒業者にとって心強い取り組みである。</p>	<p>同窓会と協働しての「看護実践を語る会」の実施について評価したい。</p>
52	<p>ア ファカルティ・ディベロップメント活動として、専門科目の教育能力向上、教養教育と専門教育の統合化及び共同研究等の活性化等の研修を組織的に企画し、実施する。</p>	<p>ア FD活動として次の企画を行い、ほぼ全職員が参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「本学の教育理念を具現化するための学士課程教育のあり方」 ・「他大学の初年次教育の報告と本学の専門関連科目の報告」 ・「実習における実践と理論の統合」又は「学習における基礎能力向上のための教員のかかわりへの討議」 ・「青年期のうつおよび学習障がい・発達障がいを捉えた学生生活支援」 ・「成績評価に関する研修会」 	<p>特筆すべき取組 ほぼ全職員が参加する研修会を企画、実施されていることは評価できる。</p>	<p>努力が認められる。今後ますます向上されることを期待する。</p>
66	<p>評価基本方針に沿った評価制度の構築に着手する。</p>	<p>事務局職員の評価については、評価基本方針に沿った評価を実施した。また、教員の評価制度については、評価制度構築スケジュールを作成した。</p>	<p>充実希望 事務局職員、教員も同じ法人職員であるなかで、事務局職員の評価のみが先行している。</p>	<p>教員についても早急に制度化されることが望ましい。</p>